

薬師寺の調査

—第368次

はじめに

この調査は、薬師寺境内の北寄りを東西に流れる排水路の付け替えに伴い、奈良市河川課の委嘱を受けて実施した。調査地は薬師寺西面回廊の外側に当たる。調査面積は246m²、調査期間は2004年2月12日から3月17日。工事深度が奈良時代の遺構面を破壊するには至らないため、重機による掘削を終了した後に遺構を検出し、壁面を精査した。検出遺構の掘り下げはおこなっていない。

基本層序

基本層序は上から表土、造成土、明灰色砂質土、暗灰色砂質土、茶褐色砂質土の順に堆積する。明灰色砂質土以下は中世までの遺物を含む整地層である。茶褐色砂質土の下で部分的に瓦、炭、焼土の堆積層を確認した。これらの整地土は回廊が倒壊したのち、周辺の地ならしをしたものと考えられる。

検出遺構

茶褐色砂質土の上面で、溝、土坑、井戸、瓦溜り、集積遺構などを検出した。掲載した平面図は主な遺構を検出した部分である。SX2825は瓦溜り。瓦の中には平安時代の軒平瓦が含まれる。SD2826は南北溝。暗灰色の埋土で、近世の土器を含む。SE2827は井戸。掘り下げていないため、時期は不明。

出土遺物

瓦と土器がコンテナ10箱程度出土した。瓦は本薬師寺創建瓦である軒丸瓦6276A、薬師寺の所用瓦6304Eなど

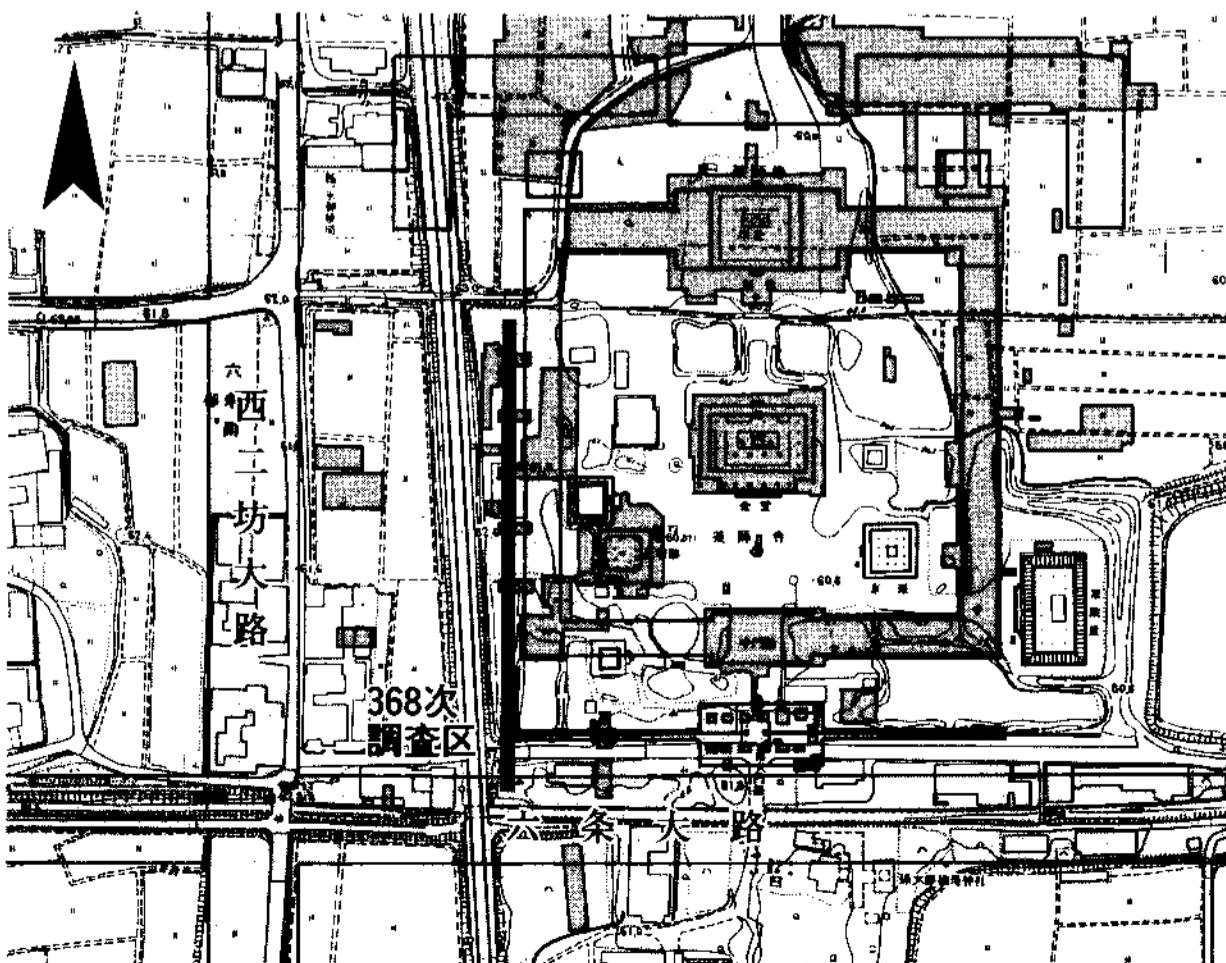


図169 第368次調査位置図

が整地土中から出土している。土器は奈良時代の須恵器、土師器のほか、中世の瓦器が少量出土した。金属器、木製品、木簡は出土していない。

まとめ

今回の調査区の南端部分は境内の南西隅に当たるが、六条大路の北側溝を検出することはできなかった。今後、周辺地域を調査する際には六条大路北側溝を含めた下層遺構の調査が必要である。しかし、回廊外側は中世以降も溝や井戸が掘削され、遺構の密度は高い。長期間に渡って活発な土地利用がおこなわれていたことが判明した。

(豊島直博)

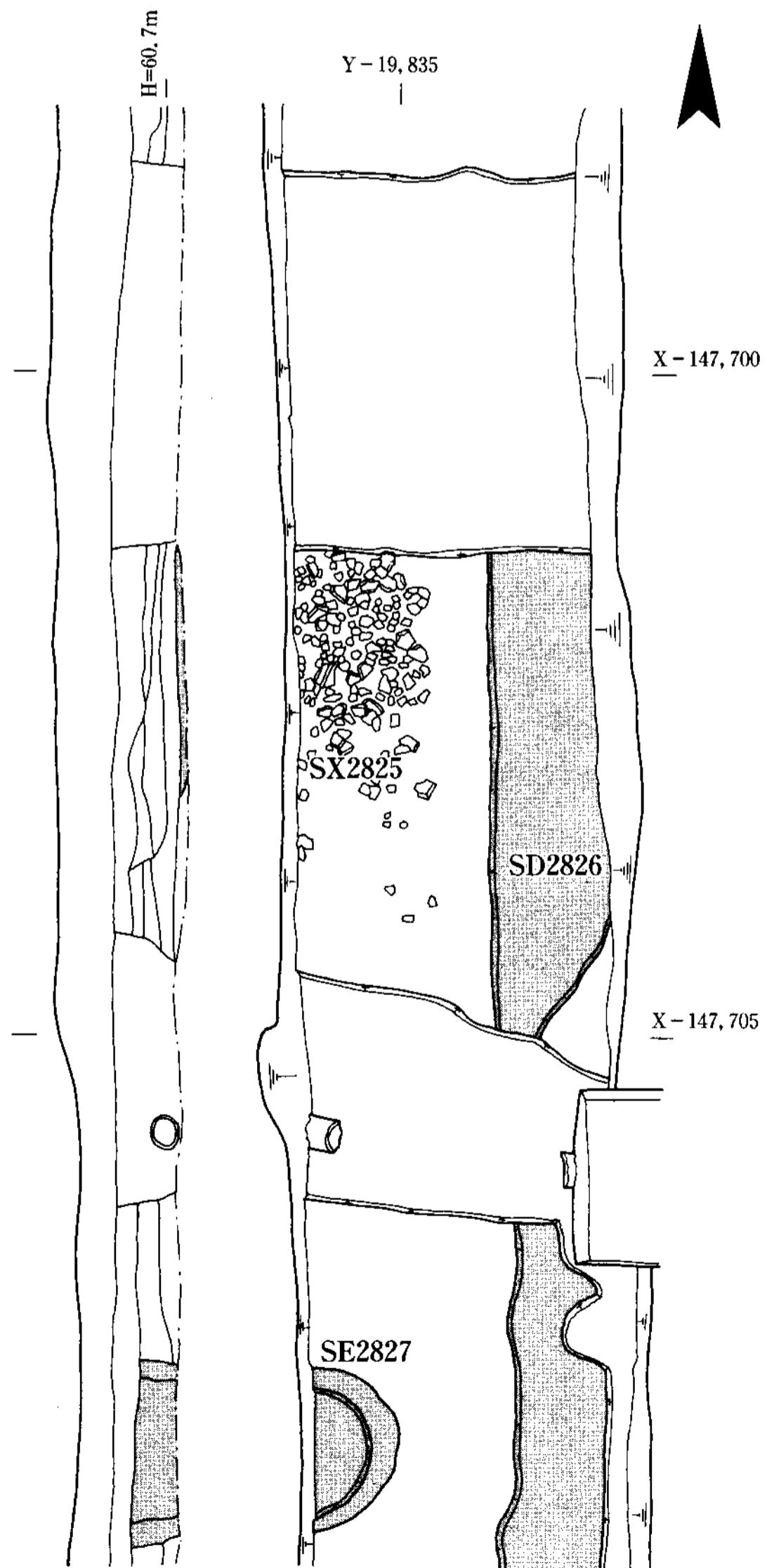


図170 第368次調査遺構平面図・断面図 1:80